

目が覚めたら、ちつ下の妹と同じ学年になっていた。何を言ってるのか分からないと思うが、僕もまだ腑に落ちていない。

どうやら僕は事故で植物人間になったらしい。それも4年半も眠り続けていた。

当然学校も留年し続けていて……結果、目が覚めたら妹と同じ学年。

正直耻ずかしかった。というのも、妹は子供カという意識が僕にはあったからだ。

しかしベッドの上で眠り続けた僕の体は、すっかり衰えて、華奢になっていた。

一方、妹は現役バリバリのバレーボール部キャプテン。体格では圧倒的に妹が優位だった。

勉強は？

勝てるはずもない。

僕は授業を聞いても、何を説明されているのか全く理解できなかった。

だって、4年半も寝ていたんだから。

一方、妹は学年で常にトップに入る秀才。

完全に……。

完全に、僕と妹は立場が逆転していた。

事情を知らない人からは、

姉カと弟カと本気で思われている。

そして、最も恐れていた事態が起こった。
両親からの進言。

「翔太、美味にお勉強教わったら？
あと体も鍛えてもらいなさい」

正直言って、いつか来るとは思っていた。
だって両親の教育方針は、
「完全実力主義」
なのだから。

実力の無い僕は妹に勉強を教わり、
体も鍛えてもらわないといけない。
妹は両親の言葉を受けて、
僕にこう言った。

「お兄ちゃん。まずは体を鍛えよっか。
背筋力を鍛えようね。
裸になってブリッジしてよ。
アタシがお兄ちゃんの顔に座って、
負荷をかけるから
良いよって言うまでしっかりキープね」

「お見ちゃん、病院生活長かったから
千ノ毛まで剃られてたんだね。
ツルツルじゃん(笑)。
うん、良いと思うよ。
子供みたいで(笑)」



「あれあれあれ？どうしたのかな？
お見ちゃん。背中が落ちて来てるよ。
落ちないようにお千〇ポ握ってあげるね♪
背中が付いたらお仕置きだよ。
お勉強中ずいっとお尻叩きの罰っ！
嫌でしょう？
妹にお尻叩かれながら、勉強教わるの。クスクス」

「あーあー。また背中が落ちてきた。しょうが無い。ガリツツのゴツを教えてあげる。腰を上突き出しなさい。そうすれば自然と背中が浮くから。アタシの手のお尻にお尻の穴を突っ込む感覚よ。ほら！もっと腰を突き上げるっ！」



男の子の腰振る姿って本当に可愛い♡♡♡
だあー♡♡好き♡♡♡

「そうそう。やれば出来るじゃない。お尻の穴で感じるでしょう？アタシの手体温。指の窪みが最高に気持ちいいでしょう？お尻の穴ももっと突っ込んでほしいでしょう？腰を突き上げていけばもっと感じるよ。手の輪っかの中で射精したいよねっ！」

「やだ。もう逝ったの？精液漏れてきてるよ。
すっごい。まだまだ出てくるうーっ♪
止まらな〜い♪♪♪
もしかしてお兄ちゃん、ガツツリ溜まってるの？
ああ、そのか。4年半も〜無沙汰だもんね(笑)」



もうおちちもった
もっと出るよねっ。
もっとおちちもった
もっと出るよねっ。
た〜んぱんぱんおちちもった

「ほらほらっ！
背中が落ちてきたわよ！腰もっ！
もっとおちち〇お突っ込んで！
カカリを指の窪みに擦りつけなさいっ！
精液がジュクジュクのローションみたいで、
気持ちいいでしょ？
。。。そうそう。そうやって腰を突き上げるっ！」

「あ、もしかして腰を動かせば、自然と舌も動くって思ってるの？
その考えは浅はかだよ♪
だって女の人を遊かせるのに、そんな単調なサービスじゃ意味ないんだよ？
童貞のお見ちゃんじゃ分かんないかなあ〜(笑)」



「お！腰が激しくピストンしてきたね。
うんうん♪その調子その調子♪
はい。2回目の射精頂きましたあ〜(笑)。
早いねえ？。情けないね？。
たくさん出たね？。でもアタシは不満だな？。
もっとなないの？
あっ……あっ……」

2回目の射精で僕は背中が床についてしまった。
体中の筋肉がガシガシいってる。

妹は黙ったまま自室に帰ってすぐに戻ってきた。
僕の大好きな…裸エプロン姿に着替えて…。



「よく頑張ったね。
ご褒美にミルク飲もっか♡
はい。キューキューしてっらん。
おっほいミルクをたくさん飲んで、
男の子らしい体になろうね♡♡」

「頑張ったから、頭十ヲ十ヲしてあげる。
いい子いい子♡
ほら、もっと強く吸って。甘飲みじゃなくていいよ。
あ、またオチの千〇千ン大きくなってきたね♪
もう少し搾ろっかゆゆ♪」

ぶしゅっ♡

ちゅっ

ドク
ドク

お尻お尻♡
お尻お尻♡





「これからお兄ちゃんは、アタシのおっぱいミルクで
体を鍛えるんだよ。
お兄ちゃんの筋肉は全てアタシのおっぱいミルクで
出来ていくの。素敵でしょう？」

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



「嫌いやないよね？
だってオチのチンは拒否してないもの。
おのほい吸うのも、少し上手になってきてるよ
頑張ったら、褒美があるって素敵でしょ？
お勉強も頑張るうね？」



つくすっ。
今、お勉強のこと考えたでしょ。
オチのチンが少し硬くなったよ？
厳しくされる方が、崩えるのかな？
もしかしてお見ちゃんってPMさんなのかな？

くちさっ

くちさっ

くちさっ

ちゅっ
V-V

お見ちゃん

お見ちゃん

「ああ、そんなに怯えなくても平気よ。
誰にも言わないであげるから。
それに、男の人は皆マゾいだよ。
そんなことでお兄ちゃんを嫌いになったりしないよ。
だからたくさん射精してね」



「あ、また出た。
安心したのかな？
安心すると射精しちゃうなんて、
やっぱり男の子なんだね。
よしよし♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡」

「あ、また出た。
安心したのかな？
安心すると射精しちゃうなんて、
やっぱり男の子なんだね。
よしよし♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡」

ドクドクドク
ドクドクドク

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

こうして僕と妹の筋トレは終わった。
妹曰く、

「お兄ちゃんの体力だと、
筋トレは3日に1回が限界。
それ以上は、体を壊すからダメ」

とのこと。

僕は毎日筋トレをしたい衝動を抱えながら
毎晩モンモンとしている。

ちなみに今の僕には、
絶対オナニー禁止令^ニが出ている。
理由を聞くと…

「精液は妹が搾り取るものであって、
自分で擦って出すものではないから…」

だそうなんだ。

納得出来ないけど、逆らう体力もなかったの
で僕は言われた通りにしている。

「あ、そうそう。」

筋トレの無い日はお勉強みてあげるね。

お兄ちゃん
♡
レ